

ワークショップコレクション2007 in 慶應義塾

「こどものためのワークショップの博覧会」開催



6月30日、7月1日の2日間、慶應義塾大学三田キャンパス西校舎において、「こどものためのワークショップの博覧会」(特定非営利活動法人CANVAS、慶應義塾大学DMC機構主催)が開催され、2日間で約6500人の親子がさまざまなワークショップに参加した。これは、慶應義塾大学DMC(デジタルメディアコンテンツ)機構によるデジタル知財プロジェクト(DO-PP)発足に伴ったキックオフイベントで、同キャンパスの別校舎では「コンテンツ産業」「メディア融合政策」に関するシンポジウムも開催された。



「ビスケット2.0でプログラミング体験」。世界一簡単にコンピュータプログラムの基礎を学べる「ビスケット」を使って、複雑な動きをする美しい模様づくりに親子で取り組む。出来上がった作品はインターネットに公開された。



「コマドリアニメオーケストラ」では15コマの映像を撮り終わったらボレロの曲に合わせて上映。音楽とアニメの動き方がピッタリ合ったときは気持ちいい。アニメ制作の基本が体験できる。

## 創作ワークショップあれこれ

今回の「こども」のためのワークショップの博覧会には廣徳義塾大学三田キャンパスがある港区内の小学校に告知されたこともあり、開場の朝11時には約500人の親子連れが行列を作り入場を心待ちにした。そして開場と同時に思い思いの創作ワークショップ(合計34種)の部屋に足を運んだ。

購できるワークショップなど最新のデジタル機器を使ったセミナーに挑戦した。

また、身近な素材を使った創作体験として、アルミホイルを丸めて金槌で叩きながら工形コインを作るワークショップがあり、子どもたちは夢中になってきれいな円形をつくる作業に熱中していた。

ほかに、身の回りにあるさまざまな素材を自由に使って自分の気持ちを画用紙上に表現するワークショップでは、造形作家・カナイヒロミ氏が素材の使い方をアドバイス。参加者は自分の

今回のイベントを主催したCANVAS(キャンパス)は子どものための創造、表現の場を提供し豊かな発想を養う土壌を育てることを目標として2002年11月に設立されたNPO法人で、全国の教育関係者、行政企業、ミュージアム、アーティストなどと連携している。CANVASが行うイベントでは最先端のデジタル技術を活用するだけではなく、昔ながらの道具を活用するなど自由な発想で伸び伸びと何かを創りだすための場づくりを推進し、そのために必要な技術やノウハウも提供している。

CANVASはクリエイティブ活動の場を通して、子どもたち一人一人の創造力と表現力を高めていきながら、社会全体でクリエイティブな感性を涵養し表現力豊かな国として世界への文化発信と交流も活発化していく環境を整えていくという。

さらにCANVASでは学校・教育関係者、ミュージアム・児童館関係者、大学等の研究者、アーティストのほか、企業、官庁、地方自治体などとの産学官連携・協調を重視しながら、子どものためのさまざまな活動を支援するセンター的機能を果たせるようにするのが目的だ。



「アルミホイルを叩いてつくろうver.世界のコイン」では使い慣れない金槌を使って自分のオリジナルコインを制作。薄いアルミ箔が厚みのあるコインに様変わりした。



粘土で作るパースデーケーキコーナーでは、中央にある大きな粘土ケーキに参加者がオリジナルのモチーフを作ってのせていった。



ラジオのDJ体験では係のお兄さんと一緒にDJを体験。約3分の番組はCDに録音されて参加者にプレゼントされた。

気持ちを自由に画用紙上に表現する楽しさを発見したようで、「子どもより親の方が夢中になる光景もあった。」

ラジオのDJを体験しながら情報干渉を学ぶワークショップでは、子どもたちが自分で書いたラジオの原稿をDJになって読みながらミキサー操作も学ぶ。最初は緊張していた子どもたちも自分のしゃべりと音楽が一体

になると気分も乗って笑みがこぼれるようになった。

今回のワークショップで一番人気だったのが「粘土で作るパースデーケーキ2007」で、粘土を使って小さなオリジナルデザインのミニチュアケーキを制作。色とりどりの粘土を使って精巧に作られたミニケーキは本当のお菓子のようない出来栄。子どもたちはオリジナル作品のミニチュアケーキを大切に持ち帰った。

ムービーカードを使ったワークショップは4種類のイラストカードを使って4コマ漫画を作るもので、創造力を発揮して映像メディアを通じたコミュニケーションを学んだ。



4枚のムービーカードを自由に編集することで生まれる映像物語。出来上がった作品は教室内に展示された。



キックオフシンポジウム会場

同時開催されたデジタル知財プロジェクト(DIPP)のキックオフシンポジウムは同キャンパスの東館で行われ、慶應義塾大学DMC機構教授の中村伊知哉氏、慶應義塾大学常任理事の村井純氏がDIPPの概要、趣旨を説明。パネルディスカッションは「コンテンツ取引市場」「エピタスタ特区」について、各界を代表するパネリストがデジタル時代の知的財産・著作権に関する意見交換を行い、今後の研究テーマについても話し合われた。